

保育計画成果報告書

法人名	プリメックスキッズ株式会社
施設名	はぐはぐキッズ洗足池
報告者（役職）	米木 枝里（保育事業部アシスタントマネージャー・保育士）
住所・連絡先	東京都大田区上池台 2-37-2
	☎ 03-6421-8205 E-mail

○タイトル（保育計画）

園庭がなくても大丈夫！ 室内で育む乳幼児の運動遊び

○主な助成備品

元気っ子ジム・バランスランドフルセット

1. 保育計画策定の目的

待機児童対策のための小規模保育所は保育室も狭く、マンションの一室をリフォームしているため環境がよいとは言えない。園庭もないので戸外遊びは近くの公園を利用しているが、雨天時や日頃の室内あそびの充実のためにマットセットを希望した。

私たちは年間を通して体力づくり(歩く、跳ぶ、登るなど)をカリキュラムに組み入れ、日々戸外に出て自然に触れながらいろいろな道を歩いたり、遊具で遊んでいる。

まず、自分の足で地面を踏みしめてしっかり歩いていくことを第一の目標としているため、戸外だけではなく室内においても登ったり、ジャンプを経験できる環境を設定したかった。また、1才から2才、3才と体が成長する時に、自分の体の動きを知ってほしいという思いもある。登れなかったところに登れた、四つ這いにならずに段差を降りる、下にマットがあると思い切って跳べるなど、できなかったことができた喜び、達成感を味わってほしいと思う。

2. 具体的な実施内容

斜面、段差などを組み合わせて、平衡感覚、体幹、バランスを養っていけるように1才児、2才児で組み合わせの内容や難易度を変えて各年齢に対応して遊んでいる。

1才児には階段登りや斜面登り設定した。低月児はようやく歩行が完成した子もいるので、立って登ったり、四つ這いで登るのにちょうど良い斜面や段差だった。また、ウレタン素材のため角がソフトでぶつかっても安全なので、乳児の遊具としては良かった。

2才児においては、1才児と異なり動きがダイナミックなので、斜面と階段を分けて設定したり、間をあけて飛び移りをするなどパーツの配置を変え、2才児の運動欲求を満たせる

ように考慮した。平均台、丸太もバランス感覚を促すために毎回どちらかを設定している。

はじめは幅の狭いところや湾曲しているところを歩くことを恐いと感じた子どもたちも何度か経験するうちにスムーズに渡れるようになった。また、丸太を電車に見立てて、ごっこ遊びに発展することもあり、ひとつの遊具からいろいろ想像して遊べるように子ども達の感性を大切にしている。



1才児



1才児



1才児



2才児



2才児



2才児

3. その成果と評価

1才児は2才児の動きを見てマネをする、やってみようという気持ちが育ち、はじめての事に尻込みする子や運動することに興味のない子も少しずつ参加するようになった。

室内での遊びが戸外でも石段登り、坂道を歩く、すべり台に意欲的になったなどの行動につながり、より外遊びが楽しいものになっている。

個々の発達、運動能力には大きな差があるので、得意、不得意を考慮し、できるところからやっていくことで自信につながっている。

保育者の側から見ても、遊びながら一人ひとりの運動能力の様子を十分に把握し、苦手な動き、足腰の発達の見極めのきっかけになっている。

室内での運動遊びとしては、楽しみながら安全に設定できるため、今後も活用していこうと思う。



4. 今後の課題と展望

以上のように 1、2 才児の遊びの様子から見えてくることは、「段があったら登りたい」「登ったら飛び降りたい」という動き回りたい気持ちが強い。いろいろなことに好奇心を持ってやってみようとする。そういった子ども達の気持ちを満たす遊び、環境づくりを考えていきたい。

マット遊具であっても遊び方はいろいろな方向へ向かう。見立て遊びからごっこ遊び、集団遊びへと次々と遊びを考え出す。それをより楽しく遊べるようにサポートし、見守り、身体の発達も促していきたいと思っている。できれば保育室の一角に常時斜面板などを設定して、日頃から登り降りできるようなコーナーをつくりたい。

しかしながら、限られたスペースで遊具の素材がウレタンであっても、まだ足腰が不安定な子ども達の運動遊びなので、事故やケガにつながらないように十分に気をつけることが最も重要なことである。

以上